

1. 教育の責任

日本のグローバル化に対応していくため、看護の対象となる多様な人々を理解し、心の健康の維持増進や医療が必要となった精神障害者への適切な医療・看護を実践できるような看護師を育成します。具体的に、多様な背景を持つ心の病を患う対象者がどのような体験や生活をしているのかを理解し、リハビリの視点からケアのあり方について考える演習・実習を展開しています。

2. 教育の理念

「豊かな教養と専門的学術、旺盛な自己開発精神、優れた国際感覚及び問題解決能力を備えた人材を育成する」という本学の教育目的を踏まえ、主体的に対象者の多様な価値観に触れ、自身の価値観だけでなく、対象者の立場や価値観から必要なケアや関わりを考えることができる姿勢を身に着けることができるよう支援します。

3. 教育の方法

精神看護学の講義：心の健康の維持増進や精神障害者への適切な医療・看護を実践するために必要な知識や看護としての役割等について、講義や演習（ロールプレイ、グループワーク等）を通して学んでいきます。また、実習では実際に精神を患う対象者と関わる機会を持つため、その際に活用するコミュニケーション技術や対象理解に必要なアセスメント技術（精神症状、セルフケア等）、看護ケアを立案するうえで必要なリハビリの視点と看護ケアの立案方法を講義や演習を通して学び体験をします。精神看護学実習：講義や演習で学び体験した内容を授業資料や教科書の活用により思い出してもらい、実践をします。実践したことが看護を行った学生、対象者にとってそれぞれの立場からどのような思いや体験となっているのかを考えてもらいます。

4. 教育の成果

精神看護学実習では、入院する精神障がい者と関わった学生から「私たちとそんなに変わらない」「実際に話してみると普通の人のような気がする」という発言が見られました。全員ではありませんが、多様な背景を持つ対象者に関わることで実際を知り、もともと持っていたネガティブなイメージに変化がみられました。また、ネガティブなイメージが変化することで主体的に対象者に関心を向け関わる姿勢につながり、対象者と一緒にケア計画を立案し、実践と共有をし、対象者さんからフィードバックをもらうことができた学生がいました。

5. 改善への努力と今後の目標

患者さんが体験している精神症状や看護師が行なっているケアなど、精神看護では目に見えないものや曖昧なものを取り扱うことが多いことから、非常に理解することが難しいです。「患者さんと話しをしているだけで看護はなにもししていない」と訴える学生がいました。そのため、少しでも学生が行なっている対象者との関わり（コミュニケーション）に看護としての意味があることに気づいてもらえるよう、授業や実習内容を工夫していきたいと考えます。

【添付資料】

シラバス、精神看護学実習要項、講義資料